

工事中事故報告書

1. 発注（報告）機関	名古屋支社 ■■■■ 保全・サービスセンター （立会者） —																															
2. 工事名	2023年度 名神高速道路 ■■■■ 管内維持修繕業務																															
3. 発生日時	2024年3月1日（水） 21時50分頃（天候：曇）																															
4. 発生場所	E41 東海北陸自動車道 岐阜各務原IC 入口料金所（通過時） （地先, IC間, 測点など）																															
5. 工事の概要	(1)会社名 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱ (契約者所在地) 愛知県名古屋市中区錦1-18-22 名古屋ATビル9F (2)発注区分 (指名) <u>本社</u> 支社, 保全・サービスセンター (3)工期 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで (4)請負金額 _____ 円 (税込) (5)述べ労働時間 _____ 時間																															
6. 事故の状況	雪氷車両が岐阜各務原 IC 料金所の幅広一般レーン通過時に、フロントプラウと自動精算機のバーが接触した。当方自走可能、バーは当初問題なしであったが、後日損傷が確認された。																															
7. 被災状況（公衆損害事故については、その第一原因者についても記入すること。）	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">公衆, 作業員 などの区別</th> <th rowspan="2">(ふりがな) 氏名</th> <th rowspan="2">性別 年齢</th> <th rowspan="2">職種 経歴</th> <th rowspan="2">当現場 の経歴</th> <th colspan="2">被災者の住所</th> <th rowspan="2">負傷 程度</th> </tr> <tr> <th>所属業者名 (本社所在地)</th> <th>元請との関係</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運転手</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						公衆, 作業員 などの区別	(ふりがな) 氏名	性別 年齢	職種 経歴	当現場 の経歴	被災者の住所		負傷 程度	所属業者名 (本社所在地)	元請との関係	運転手							なし	-	-	-	-	-			
公衆, 作業員 などの区別	(ふりがな) 氏名	性別 年齢	職種 経歴	当現場 の経歴	被災者の住所							負傷 程度																				
					所属業者名 (本社所在地)	元請との関係																										
運転手							なし																									
-	-	-	-	-																												
(物損状況)	人的：被害なし 物損：料金所の閉鎖バーの損傷 道損：なし																															
8. 事故に対する所見（原因考察、警察・労基署の所見など）	_____ _____																															
9. 事故発生後の処置	21：50頃 事故発生、NEXCO ■■■■ 保全 SC 雪氷本部に第一報 料金所スタッフとバーの開閉に支障が無いことを確認。雪氷本部に連絡し作業を継続。 22：10頃 ■■■■ 保全と ■■■■ 保全の当番課長間で、損傷の程度が不明であることから本日時点で事故として取り扱わないことを共有。（保留） 3月4日（月） ■■■■ 保全より ■■■■ 保全へ、事故時は異常がなかったが故障が確認されたため修理を行った旨の連絡あり。担当不在のため翌日連絡するとのことであった 3月5日（火） ■■■■ 保全から事故として取り扱うことの連絡があった																															
10. 取材及び報道	なし。																															
(本業務の本件までの事故状況)	_____ 件, うち死亡 _____ 件, 重軽傷 _____ 件, 物損その他 _____ 件																															

1 1. 位置図・状況図



料金所 開閉バー写真



当方車両写真



1 2. 事故状況

①精算処理のため、バー手前で一旦停止



②運転席より精算機に手が届かなかったため前進し停止
この時点でバーがプラウの跳ね上げ防止板の下に入ってしまう、視認できなくなっている



- ③精算機で処理した後、バーが跳ね上げ防止板に引っ掛かり上がらず
バーが視認できないことから上がったものと勘違いしそのまま発進



1 3. 原因

- ・全輪駆動車のため運転席の位置が高く精算機へ手が届く位置に寄せる際に、精算機に意識を集中したためバーへの意識を失念した
- ・停車時に運転手・助手ともに、ブラウ内に開閉バーが入っていることに気が付かなかった
- ・精算後「ありがとうございました」とアナンスでバーが開いたと思い、視認確認をしなかった。
- ・ICM料金所レーンでの通過手順の明確化と教育がなされていなかった

1 4. 対策

【即時】

①緊急安全大会を実施

- ・開閉バーが見える位置で停車し、精算機に手が届かない場合は降車して精算処理を行う
- ・精算が終了後に開閉バーが開いたかは、必ず目視で確認を行う。
- ・停車、バーの状況及び発進時には、助手と指差呼称或いは呼称で確認を実施

【今後】

- ①雪氷招集時に各基地毎で緊急安全大会を実施
- ②精算機での停車手順を作成のうえ周知
- ③NEXCO と調整を実施（処理のために降車することのリスクを無くすため）
 - ・料金所との連携（進入前に連絡をしバーを上げてもらうなど）
 - ・バーの位置及び構造変更
 - ・幅広レーンのETC化

緊急安全大会

